

メッセージアウトライン コリント人への手紙 第二11:7～15 「パウロの誇り」

[7-8]「それとも、あなたがたを高めるために、自分を低くして報酬を受けずに神の福音をあなたがたに宣べ伝えたことが、私の罪だったのでしょうか。私は他の諸教会から奪い取って、あなたがたに仕えるための給料を得たのです」

コリント教会に入り込んだ偽教師たちはパウロは本物の使徒ではないからコリント教会から報酬をもらわなかったと中傷していた。それに加えて、他の諸教会からは金を奪い取って、それをコリント滞在中の生活費にしていたと言っていた。パウロは彼らのことばを受けて8節でそれをそのまま切り返して痛烈な皮肉として用いている。

[9]「あなたがたのところにいて困窮していたときも、私はだれにも負担をかけませんでした。マケドニヤから来た兄弟たちが、私の欠乏を十分に補ってくれたのです。私は、万事につけあなたがたの重荷にならないようにしましたし、今後もそうするつもりです」

パウロがコリントで報酬を受けずに福音を伝えた理由の第1は「万事につけあなたがたの重荷にならないように」するためであった。第2は、誰にも借りや、恩義、義理などを作りたくなかったからであろう。見知らぬ土地で開拓伝道していくためには、その土地の人々から独立していなければならない。そして彼の働きを助けるために、なんとマケドニヤの教会の人々が援助してくれたのである。ここに麗しいクリスチャンどうしの兄弟愛を見ることが出来る。彼は決して他の諸教会から奪い取っているのではない。諸教会が自ら進んでパウロの働きのためにささげてくれているのである。

[10-12]「私にあるキリストの真実にかけて言います。アカヤ地方で私のこの誇りが封じられることは決してありません。なぜでしょう。私があなたがたを愛していないからでしょうか。神はご存じです。しかし、私は、今していることを今後も、し続けるつもりです。それは、私たちと同じように誇るところがあるとみなされる機会をねらっている者たちから、その機会を断ち切ってしまうためです」

アカヤ地方とはコリントも含めたバルカン半島の南部のことを指す。パウロはこの地方で無報酬で福音を宣べ伝えること誇りとし、それは決して封じられることはないという強い調子で言う。彼はそれをキリストの真実にかけてまで断言する。パウロがコリントで報酬を受けないのは、コリント人を愛していないからだ彼の反対者たちは非難していたのであろう。しかし、そんなことがあるはずがない。彼の本当の気持ちは神がご存じである。彼はコリント教会を愛しているからこそ、また福音の真理に成長してもらいたいからこそ、他の何事も重荷にならないようにとの配慮をしてきたのである。12節は彼が無報酬の伝道を続けるもう一つの理由である。

[13-14]「こういう者たちは、にせ使徒であり、人を欺く働き人であって、キリストの使徒に変装しているのです。しかし、驚くには及びません。サタンさえ光の御使いに変装するのです」

パウロはここではっきりと、教会に侵入し、かく乱した者たちを「にせ使徒であり、人を欺く働き人」であると断言する。このような者たちはコリントだけではなく、各地の教会を転々とし、権威あるキリストの使徒のような顔をして報酬を受け、誤った教えを伝え、分裂やつまずきを与えていたのである。→テトス1:10～11、ローマ16:17～18　パウロは彼らがキリストの使徒に変装しても驚くことはない。このような欺く者の総元締めであるサタンも光の御使い、つまり天使に変装するからだと言う。

[15]「ですから、サタンの手下どもが義のしもべに変装したとしても、格別なことはありません。彼らの最後はそのしわざにふさわしいものとなります」

パウロはここでコリント教会に入り込んでいる偽教師たちをはっきりと「サタンの手下」と呼んでいる。間違ったことを教え、キリストの十字架の福音を無意味なものとする者はサタンの手下であり、にせ使徒、にせ預言者、にせ教師、人を欺く働き人なのである。サタンさえ天使に変装するのならば、その手下である者が義のしもべに変装したとしても格別驚くことではない。神はやがて人それぞれの行いに応じて報いをお与えになる。彼らの最後はそのしわざにふさわしいものとなるとパウロは厳しいことばを語る。正しい福音を伝えず、誤ったことを教え、人をつまずかせ、教会を分裂に至らせるような者たちはそのしわざにふさわしい神の報いが与えられることになるのである。→マタイ16:27、ローマ2:6～8、ヨハネの黙示録20:11～15、21:8

パウロが報酬を受けずにコリントで福音を宣べ伝えたことを彼の反対者たちは中傷したが、それはコリント人たちに負担をかけないためであり、パウロの誇りとするところであった。そして、また、そのようにすることによって反対者たちの誇る機会を断ち切ってしまうためでもあった。パウロのこのような行動と熱心はすべてキリストにある愛から出てくるものであった。

私たちも間違った教えに惑わされることなく、何が神のみこころにかなない、正しくて良いことなのかをよくよくわきまえて、栄冠の待つゴールを目指して走り続けなければならない。